

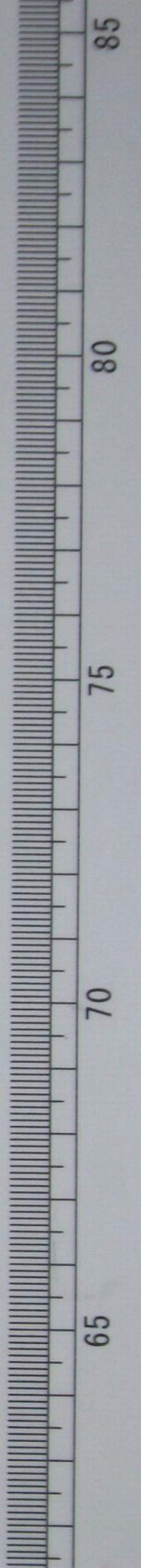
明治十年二月

鹿^か兒^こ島^{しま}記事^{きじ}

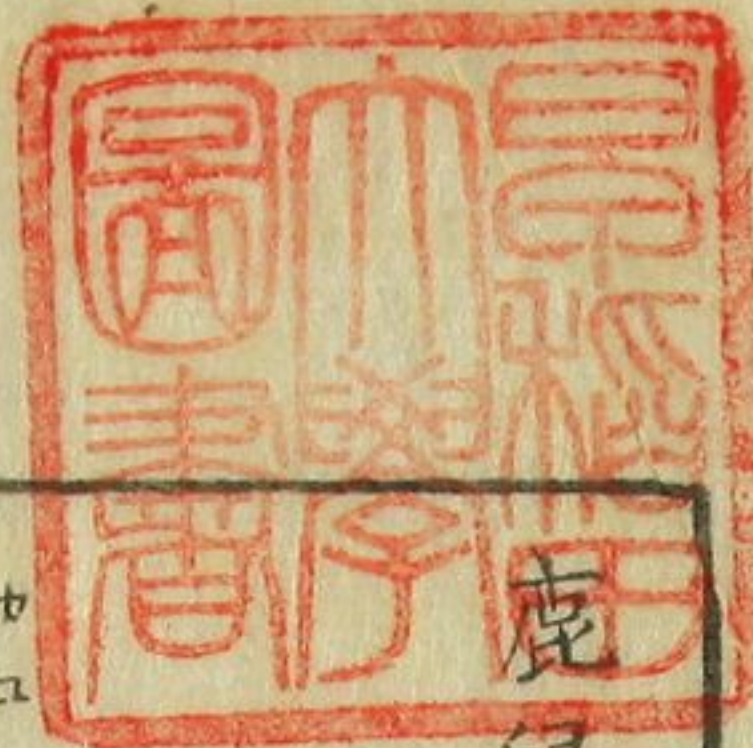
發賣

又新舍

西垣文庫 特
文庫 10
7275



特 文庫10
7275



鹿兒島記事

鹿兒島縣下士族不平ヲ抱ヒテ今般ノ暴動ニ及
ビシ根元ハ如何ナル筋ニヤ更ニ了解ラネト去
月三十一日ニ同縣下櫻島向フナル彈藥製造所
ヨリ運ビ出サントセシ彈藥ヲ悉ク取戻シタル
後チ本月一日二日ノ頃ニヤ大勢ニテ西郷君ノ
邸内ニセマリ是非トモ我輩共ニ却同意アレト

多田史廣

激論シタレド西郷君ニワ是ニ應ゼラレズ條理
ノアル所ヲ取テ懇ニ説諭サレシガ士族等ワ一
向伏セズ益々激シテ止マラマ勢ヒナリケン何
方エカ跡ヲカクシテ逃ラレ島津久光公モ同シ
ク激徒ノ説ニ同意セラレズ然レバ全ク不平士
族ノ一黨ガ暴舉ニ及ビシモノ成ヨシハ同九日
其縣ヨリノ出京セラレシ官負何某ヨリノ慥ナ
ル報知ナリシ
鹿兒島縣下ノ櫻島ハナレ島ニテ鹿見島ヨリ

吉里餘ノ灣中ニアリ
彈藥製造所ヨリ二千箇運ビ出シテ端船ニ裝込
二月一日ニワ更ニ亦千八百箇ヲ積入レント其
手密ニヒレ程ニ何處ヨリカ集マリキタリケン
士族ヲ見ユル其人員凡二千五百人忽然此處へ
押寄セテ彼ノ彈藥ヲ運ンテ居タル水兵並ニ指
揮レタル大頭鎮臺ノ軍官ヲ追取圍ンデ彈藥ヲ
矢ニモトヘ積返シ着差拒ム者アラバ斬捨ル
トノ猛勢ニ敵對センモ其甲斐ナント直チニ赤

龍元ヲ表決シ同月六日神戸へ着レテ次第ヲ申
ニレ由

鹿兒島縣地ヲ必立セラシレ内務少輔林君ハ大
分縣ノ巡廻中此事ヲ聞ルヤ否ヤ再ヒ鹿兒島
ニ發見サレ當時西京供奉セラレシ海軍大輔川
村君モ高雄丸工築込彼地へ趣カレタリト云同
八月午前海軍省ヨリ孟春艦鳳翔艦工水兵數多
衆組テ神戸へ趣キケリ諸賊徒ハ縣廳工貳百八
程各得物ヲ携ヘテ不意ニ斬入シニヨリ宿三ノ

官員達ガ必死ノ究メテ防ガレシガ身ニ寸鉄モ
帶ガルヲ血氣盛シノ壯士ガ滅多無性ニ難散セ
ン故手負フ者尠カラズ終ニ縣廳ヲ暴徒等ノ爲
ニ衆取ラレシ由
此縣廳ノ旧城下ニアリテ以前士族ノ住ミシ
明邸ナリト
内務少輔林友幸君ヲ暴徒ノ爲ニ妨ゲラレ鹿兒
島ニ入ル能ワズシテ引返サレシト云
明治六年政府ヨリ鹿兒島へ檢閱使ヲ遣ハサレ

タルニ旧藩ノ兵隊頑固ニテ新規ノ軍制ヲ喜バ
ズ且兼テ苦情ヲ鳴ラス故終ニ縣官ヨリ上申シ
テ鮮隊ヲ命シタリ夫ヨリ彼等益不滿ヲ懷キ居
タリシガ此度ノ暴動ハ多分彼等ノ所爲ナルベ
シトゾ○鹿兒島人ハ昨年十二月中四萬石餘ノ
米買入又彼地ニワ小銃三万挺ノ用意アレトモ
彈丸ニ欠之ナリトゾ十日ノ夜ノ電報ニ鹿兒島
城下ノ近村デ熊本鎮臺兵ト暴徒ト大戦争ガア
リ是ハ鉄炮イクサニテ雙方共大分即死ヤ怪我

人ガアリ亦内務少輔林君ワ長寄ヨリ保護ノ爲
警言察官吏三人ト巡查廿五人ヲ連テ彼國境ニ入
ラレル途中テ不意ニ賊徒カラ狙撃ヲシタノデ
林君ワ大ヒニ難澁其外兩死怪我人ガアリ亦彼
地ニ探索ニ出ラレン官員方モ二十人モ賊ノ爲
ニ捕ヘラレント云島津久光公其外初ノ内ワ
頻リニ暴徒ニ説諭ヲ加ヘテ居ラシガ中々用ヒ
ナイノデ大ヒニ心痛ノ余リ近村ニ退隱セシ由
山縣陸軍卿ハ供奉先ヨリ此事件ニ就ノ神戸ヲ

出帆^シ下ノ關^ニ出張^{サレ}同所ノ先年朝鮮事件
ノ時ニ根障^ト定^メシ處ニテ今度軍事ニ係^ル参^シ
謀事務ヲ取扱^ワレルト云大阪鎮臺ヨリワ既ニ
出兵ニ成^テ同十一日ノ夜福岡縣下工著ニナリ
同十三日大久保内務卿日下部大書記官ト外売
人トデ急ニ玄武丸ニ乘^込テ神戸工向^テ御出帆
ニナリ其外島津久光公ノ家令楠原氏モ同船ノ
由^ニ
(次号ニ委^クレク)

明治十年二月二十日出版

東京府平民
書肆

樋口徳造

第五大區四小區
神田五軒町

發賣
又新舍

全

神奈川縣下
横濱辨天通四丁目
池田銀次郎

100

第百...

52
K
52
52

百廿番地
字所

